震災から1年…
もしもの備えが力になる

地震が原因で札幌市で起こった液状化現象による道路の陥没

平成30年北海道胆振東部地震

発生時刻	平成30年9月6日 午前3時7分
震源地	胆振地方中東部
最大震度	7(厚真町)
マグニチュード	6.7

妹背牛町における被害状況

震度	4
停電時間	午前3時7分
通電時間	午後2時40分

昨年9月6日、道内に甚大な被害をもたらした「平成30年北海道胆振東部地震」。胆振地方中東部を中心に大きな揺れが観測され、全道各地に多くの被害を与えました。妹背牛町もその影響を受け、災害の怖さや通常通りの生活を送れない不安を感じました。

あれから1年が過ぎました。私たちは昨年の災害経験から何を学び、何を変えていくべきなのでしょうか。

あの日おきたことを教訓に

総務課総務グループ（防災担当）川上主幹

あの日は熟睡中でしたが、大きな揺れとスマートフォンの警報音で目が覚めました。すぐさま役場に駆けつけ、同僚たちと災害情報の収集にとりかかりました。しかし、停電のため事務機能がマヒ状態。小型の発電機を動かしてようやく一部の機器と電話がつかえるようになりました。

町内を巡回した職員の情報では、幸いにも地震による人的・物的被害はない模様。問題はこの停電がどこまで続くのかということです。ラジオなどから入ってくる情報では、全道的な大規模停電で、これが長期化すると町民の生活に支障がでてきます。そのため、まず生活用水の供給として、老人福祉センターで備蓄のミネラルウォーターと、ポリタンクによる水の配給を行いました。

その後も電力復旧の見通しがなく、避難所開設の準備を進めていたところ、幸いにも本町は午後2時40分に通電再開となりました。

今思えば、11時間ほどの停電でしたが、現在の私達の生活はほとんどを電気に

依存しています。たまたま、この日は初秋の比較的過ごしやすい季節であったことが幸いしましたが、これが冬期間だとすると、陽が短く暖房機具が動かない事も想定され、町民に対し最善の策を取らなければなりません。また、町民全体に情報を伝えるにも、町の広報車しかなく、その間にネット上では不安を煽るようなデマ情報も流れていたようです。

震災から１年…

災害は地震や風水害などの直接被害ばかりではなく、こうした間接的なことでも平穏な暮らしが脅かされることを切実に感じました。

この教訓をもとに、本町でも防災の要となる役場に、３日間72時間の停電に対応できる発電設備や全町一斉に正確な情報を届ける防災無線などの整備を計画しています。また、町の防災計画では、老人福祉センター・保健センターなどが避難所に指定されており、ここに緊急用食料や毛布、段ボールベッドなどを備蓄し、年次的に増強しています。（下図参照）

本町は高齢化率が47％と高く、災害時における高齢者対応も大きな課題です。現在は民生委員が地域分担して把握をしており、災害時には地域の協力員との連携で対処することになります。今後は防災計画を見直し、高齢化を踏まえた本町の実情にあったものにして行く必要があります。

対策1 “ブラックアウト”の脅威を経て

昨年の災害時の大規模停電の際には、小型の発電機を用いて電話や情報機器のシステム対応を行いましたが、ほとんどの業務が止まっている状況でした。そこで新たに発電機を購入する予定です。役場庁舎、保健センター、老人福祉センターの３施設を７２時間まかなえます。令和２年度に実施設計、工事をする予定です。

対策2 正確な情報を届けるために

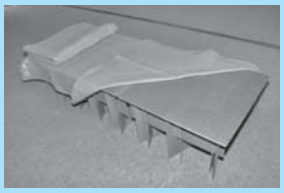
災害時にとても重要な情報収集。北海道胆振東部地震の時には、SNSなどでのデマ情報の拡散が問題となりました。こういった間違った情報が流れまちの皆さんが混乱することを防ぐため、戸別受信機を各家庭に配布することを予定しています。通常はまちの情報を配信し、災害時には役場から必要な正しい情報を優先的に配信します。

農家地区には屋外拡声子局を７か所設置する予定で、災害時に情報を発信します。

対策3 予測できない災害への備え

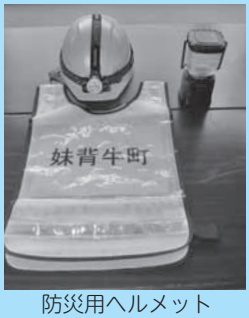
妹背牛町では非常備蓄品としてダンボールベッド、敷きマット、毛布、缶詰パン、飲料水を準備しています。

非常備蓄品は、毎年少しずつ購入し数を増やしていました。予測することができない災害に備え、今年は一度にダンボールベッドに付ける間仕切りを５０セット、非常食のアルファ米を１５０食購入しました。



ダンボールベッド

災害用備蓄食料



防災用ヘルメット
防災用ベスト
LED ランタン

一時避難所一覧

災害時に危険を回避するため一時的に避難する施設です。

- 農業者トレーニングセンター
- 妹背牛小学校グラウンド
- 妹背牛中学校グラウンド
- 小藤地区運動広場
- 新千代地区運動広場
- 遊水公園うらら

避難所一覧

災害時に危険性がなくなるまで滞在、宿泊ができる施設です。

- 老人福祉センター
- 保健センター
- 妹背牛小学校
- 妹背牛中学校
- 認定こども園妹背牛保育所
- 総合体育館
- カーリングホール
- 妹背牛温泉ペペル
- 小藤地区コミュニティセンター
- 新千代地区コミュニティセンター
- 大鳳地区コミュニティセンター

※町民会館は耐震性が基準より劣っているため避難所から除外となっています。

「ブラックアウト」を経験して感じた日頃の電気への依存と備えの大切さ

8／23　もせうし作戦会議

「妹背牛町のことについて、気軽に語り合いましょう」と、毎月わかち愛もせうしひろばで行われているもせうし作戦会議。8月23日は**「ブラックアウトから一年」**と題して、昨年の災害で経験したこと、困ったことなどを話し合いました。

このなかで多く出たのは情報収集の方法について。「テレビがつかない」、「ラジオを出してきても普段使わないから電池が入っていない」電気がないと様々な情報収集の手段が断たれるということがわかりました。そういった不安な状況の中、噂で広がってきた情報を真に受けてしまい、デマ情報に踊らされたという方も。緊急時に正しい情報を手に入れる方法を作っておくことが重要だということを再確認しました。

妹背牛町という今まで災害の少なかった町に過ごしてきて、防災意識が低かったという方が多く、これからの対策として「いつ災害が起きてもいいような対策を取っておくこと」、「停電によりどれだけ困ったのか、不安を感じたかを語り継いでいくことが必要だ」という声が上がりました。

「防災グッズを用意した」、「家具を固定した」、「避難場所を確認した」など、すでに実際に災害対策を行っているという声も多く、昨年の地震では不安な思いや不便を感じた反面、得たものも多かったのではないでしょうか。

ブラックアウトについて話し合われた第５回もせうし作戦会議

突然起きた災害、助けてくれたものは…

丸長（まるなが）　良子（りょうこ）さん

昨年の地震の日は大きな揺れで目が覚めました。時計が落ちてきたときには恐怖を感じてパニックになってしまってましたね。ですがそのあと、区長さんから安否確認の連絡が入ったんです。それだけでかなり落ち着くことができました。

私の家はオール電化なので、停電になってしまうと炊事が何もできなくなってしまうんです。それで困っていたときお隣さんからご飯を食べさせてもらってとても助かりましたね。他にも、ひとり暮らしの方が気になってお世話になっていた当時の篠原商店さんに行ってみたら、「お代は後で良いから」と食べ物や飲み物を渡してもらいました。

災害時には地域の助け合いが重要なんだということを切実に感じました。

災害を経験して私たちが学んだこと そしてこれからの課題とは…

昨年9月6日、北海道胆振地方中東部を襲った「北海道胆振東部地震」は、震源地周辺に甚大な被害を与え、その影響による大規模で長時間にわたる停電は全道各地にも及びました。日常生活のほとんどを電気に依存している私たちの生活は、これにより間接的な被害を受け、かつて経験したことのない生活の不便や不安を感じさせられました。

災害はいつどこで起こるかわかりません。このことを身をもって経験した私たちは、ここから多くのものを学び、課題を一つずつ克服していくことが大切です。災害は確かに不幸なことですが、これを経験したことで得られた学びをもとに、日々減災への努力を積み重ねて行くことで**「もしもの備えが、強い力となる妹背牛町」**の礎が築かれて行くのではないでしょうか。